



未来を夢見て

2020/10/05 No. 40

サウンド オブ ミュージック ♪

10月になりました。いつも給食を準備してくださるとく子さんが「今月からおかずが一品増えましたよ!」と教えてくださいました。

この日は「たいわの食育かるたメニュー（満月におそなえ すすきにお団子 秋のくだもの）」です。

写真のようにハンバーグはうさぎの形、白玉だんご汁にお月見デザート、そう言えば昨夜もきれいな満月が空に浮かんでいるのが見えました。

本来であれば、今頃は10月中旬に予定されていた「小野っ子音楽会」に向けて、どの学年でも練習が佳境に入り、子供たちの歌声や楽器の演奏で学校が包まれていたはずです。回覧で回ってくる、大和町内の他の小学校の行事予定を見て、「学習発表会」や「学芸会」を行うことができる学校をこのときばかりは羨ましく思えます。

9月から音楽活動も部分的に再開し、写真のように校舎の犬走りを上手にを使って、鍵盤ハーモニカの練習に取り組む姿も見られるようになりました。

先週は、3年生が校庭で音楽の授業が始まりました。きれいなリコーダーの音色と歌声に思わず耳を傾けると津代先生が指導をしてくださっていました。オルガンもピアノもありますが、先生のきれいな声とタンバリンを上手にを使って子供たちを指導している様子がすばらしく、感心させられました。

また、同じ3年生では、靖子先生がリコーダーの指導を校庭で行っていました。先生の指導で子供たちはどんどん上手に曲を演奏し、とてもよい演奏に仕上がっていききました。

もし、ここに、聴き手がいてくれたら、子供たちのモチベーションがあがり、さらによりよい演奏になることは間違いありません。

歌は「(だれかの心に 訴える (うったえる))」に通じます。歌や演奏などの表現は、そこで完結するのではなく、聴き手の存在、思いを伝える存在がやはり欠かせません。

今回のコロナ禍で、特に本校のような大規模校ではこれまでのような「イベント型」の行事の在り方が根底から問われています。

これまでのように大々的にイベント型の行事を行うことは今後も難しいように思いますが、行事の運営を学年や学年部が主体となって行ったり、屋外の音楽堂を想定して行ったりすることは難しいでしょうか。授業研究もそうですが、やはり子供たちは「見られること」で成長します。

津代先生や靖子先生の指導を見せていただき、子供たちの力の引き出し方の上手さに、昔見た「サウンドオブミュージック」の場面を思い浮かびました。



(文責：手代木)